

福 井 県 医 師 会

だより

第709号 令和2年(2020)7月



大野市の花のジュータン

大野市 薬袋 俊次

表紙写真説明：大野市の花のジュータン

大野市 薬袋 俊次

ゴールデンウィーク前後の期間に車で福井市から美山を過ぎ花山峠または丁トンネルを抜けて大野市に入ると道路の両側の田園にシバザクラの花のジュータンが目に飛び込んでくる。平成4年頃に乾川・丁地区の数人の住民によって畦畔（田んぼの法面）の雑草対策や景観作りの為にシバザクラを植栽する取り組みが始められ、現在では植栽地域が広がり和泉村に通じる国道158号線の砂山トンネルを抜けて右側田園にまで見渡せる。

写真の場所は大野市のショッピングモールの裏手に流れる用水路付近をウォーキング中に通った時に撮った一枚である。少し霞んでしまったが遠くに日本百名山の一つ荒島岳を望み我ながらベストショットと感激、会員諸先生方にも来期には是非見に来て頂きたいと思い投稿させて頂いた。

醫 縫 録

保険および会計担当理事として

保険・会計担当理事 安原 修一郎



令和元年6月より、これまでの保険担当に加え会計担当理事を拝命し、総務の末席に加えていただくことになりました。これまで保険担当として行ってきた会務について、また保険・会計分野の今後の課題などについて少し述べさせていただきます。

私は、平成21年、当時の福井第一医師会の会長に山本誠先生が就任されたのを機に、バトンを受ける形で県医師会理事に就かせていただきました。当初、医師会会務、特に保険担当について何もわからないまま当時の松田会長からのご指名を受けてしまい、困惑いたしました。廣瀬龍吉先生をはじめ諸先生方のご指導ご助言をいただきながら、何とか担当の職務を続けてきました。年月が経るごとに、保険担当の重要性を身にしみを感じながら、果たしてその役割を十分果たしているのか、自問自答、反省の日々の中、今日まで至っております。

保険担当の役割は、①厚生局への対応（指導・監査の立会い等）、②診療報酬についての対応（改定や疑義解釈変更等について会員の先生方への情報伝達等）、③レセプト審査に係る対応（Q&Aの発行、変更等）、④中部医連など他県医師会との情報交換と多岐にわたっております。それぞれの問題点、今後の課題のいくつかを列記します。

1. 厚生局による指導・監査には、かねてより多くの問題があると指摘されております。特に、高点数であるという理由のみで、個別指導の対象になり続けていることについて、該当する先生方のご不満を多数頂戴しております。また、都会の都道府県では、個別指導の実施件数が非常に少ないという点も不公平で問題です。しかしながら、日本医師会が、全国の様々な意見を集約した形での指導監査改革になかなか踏み込めていないのが現状です。県医師会としては、個別指導の対象となる医療機関のほとんどが、前々年度に集团的個別指導に選定されていることから、集团的個別指導に出席された医療機関を対象に、個別指導で指摘されやすい事項を中心に毎年講習を行っております。

2. 診療報酬は、ここ数年、形だけのわずかなプラス改定が続いており、初再診料や入院基本料の増額をはじめとして、医師会が都道府県からブロックと積み上げた要望事項は、国の財政改革の

御旗の前に何回にもわたって跳ね返されているのが現状です。

3. レセプト審査について、審査体制の機構改革という大きな流れの中、喫緊の問題として、社保審査の改革（県単位から地域ブロック毎の審査へ）が予定されていると聞いております。福井県独自のQ&Aを基準とした審査が、果たしていつまで続けられるのか？大きな問題であり、医師会全体として、また審査委員会の先生方とも協議しながら対策を練っていかねばなりません。

4. 中部医連を通した他県医師会との交流は、様々な情報交換という形で役立ってきたと感じています。なお、福井県は、東海北陸厚生局管轄である中部医連の他の6県とは異なり、近畿厚生局管轄であるという特殊な環境に置かれております。昨年、遅まきながら関西医連の保険担当理事協議会に参加させていただきました。今後も近畿の医師会との情報交換もさらに進めていきたいと思っております。会計担当としては、私自身、まだまだ会計全体を十分見通せていない状況です。昨年、郡市区等医師会長会議において会費徴収制度の再検討という大きなテーマが提案されました。今後、定款改正委員会の中で議論が進められると思いますが、会員の先生方全員に関わる、また医師会活動全体を支える根幹ともいえる問題であり、できるだけ多くの賛同が得られるよう期待いたします。

今期、新たに、敦賀市の半田裕二先生に保険担当理事を務めていただくことになりました。できるだけ会務を分担し協力し合う形で、さらには理事会の先生方のご指導もいただきながら、一つ一つの課題に取り組み、残りの任期を全うしたいと考えております。

最後に、保険・会計両担当として支えていただいている医師会事務局の前田さん、および五十嵐局長、Q&A作成の事務作業を一手に引き受けていただいている社会保険支払基金事務局の皆様、指導の立ち合いなどに手助けをいただいている各理事の先生方など多くの方に改めて謝辞を記し、稿を終えたいと思っております。